

News Letter

獲れたての魚介類を食卓へ

～小松島漁業協同組合～

市民の台所「JF小松島魚市場」

徳島県は、栄養豊かな内海性の「播磨灘」、黒潮の恵みを受ける外洋性の「太平洋」、それらの中間的な特性を持つ「紀伊水道」という3つの豊かな海域を持っています。

このうち紀伊水道に面する小松島市の「小松島漁業協同組合」は、底曳き網漁を主体に、ハモ、タチウオ、クルマエビ、アジアカエビ、ガザミ等、多くの魚介類が水揚げされます。

水揚げされたばかりの魚介類は、漁協が運営する魚市場「JF小松島魚市場」でセリにかけられます。この魚市場は、県内で唯一、一般向けに開放されていて、小売店を通さず、新鮮で格安の魚介類を手に入れることができます。

また、有料になりますが、その場で購入した魚介類をさばいてくれるため、手間がかからず、家庭で生ゴミを出さなくて済むことから、よく利用されています。

この魚市場は、歴史も古く「産直市のはしり」とも言われ、現在は、市内に限らず市外からも多くの方が訪れ、市民の台所として親しまれています。

将来に期待した取組

JF小松島では、食育にも積極的に取り組んでいて、毎年、市内の小・中学生を受け入れています。小学生には、魚市場を見学して日頃食べている魚を見て興味を持ってもらい、中学生には、職場体験を通じ魚に直接触れ、漁業についての知識や理解を深めてもらいます。

また、人的コストを削減するためハモの骨切り機械を導入し、市内の学校給食にハモを提供して、地元特産物の認知と普及にも努めています。

JF小松島の三原参事は「社会見学や職場体験を通して、本物の魚の姿・形を見てもらう。そして将来、水産関係に携わる子どもが育つことを期待しています」と、熱く熱く語って下さいました。「水産日本の復活！」のためには、現在（いま）の子どもたちの力が必要、とのことでした。

プライドフィッシュ

現在、徳島県では12種の「プライドフィッシュ」が登録されています。

中でも、ハモは小松島市推奨の魚として、独自ブランドとしてもPRしています。また、アジアカエビはクルマエビに匹敵するほどの味で、知る人ぞ知る美味しさです。



JF小松島
1階でセリが行われ、2階で加工品等が購入できます。



セリ落とされたばかりの鮮魚を品定めするお客さん



漁協では、
魚食の普及、
漁業への感心
を高めるため、
市内小・中
学校全生徒に下
敷きを配付し
ています。



夏：とくしまのハモ



冬：紀伊水道のアシアカエビ

小松島漁業協同組合（マリンショップ小松島）

徳島県小松島市南小松島町1-15

電話番号：0885-33-1122

<http://www.jf-komatsushima.com/>

地場の海産物を使って「海鮮定食」を提供

～ NPO法人 港まちづくりファンタジーハーバーこまつしま～

小松島市のNPO法人「港まちづくりファンタジーハーバーこまつしま」は、6次産業化の試みとして、同NPOが運営する小松島みなと交流センターkocolo 1階 カフェ・メーヴェにおいて、地場で水揚げされたばかりの新鮮な海産物を使って「海鮮定食」を提供しています。

期間は、9月6日～12月末までの毎週1回。当面は、土曜日のランチタイム(午前11時頃から)に10食程度を提供します。第3週目(写真)のメニューは、鰹(カツオ)のたたき、地元で収穫されたジャガイモやにんじんとひじきの煮物、なすのおひたし、いりこと昆布でだしをとったみそ汁とご飯。食後にはコーヒーが付いて500円と、かなりお得な料金設定となっており、毎週違ったメニューが用意されています。予約も可能です。

同NPOの立川事務局長は、「予約も(毎週)いっぱい、好評をいただいています。ただ、この価格で提供するのは厳しいです。市から補助金も受けていますが、地元の漁業者の方々の協力もあって、やっていけるんです。旬の新鮮な魚を、少しでも安い価格で皆さんに提供したい。続けていきたい」と、熱心に話して下さいました。



第3週目は「カツオのたたき」がメイン



カフェ・メーヴェ

小松島みなと交流センターkocolo
徳島県小松島市小松島町新港19
営業時間 9:00～17:00
定休日 毎週木曜日
お問い合わせ
電話番号: 0885-33-0302

インフォメーション

2015年は『農林業センサス』の実施年です！

農林水産省では、農林業・農山村の現状と変化を的確に捉え、きめ細かな農林行政を推進するために、5年ごとに農林業を営んでいるすべての農家、林家や法人を対象に調査を実施しています。

平成27年2月1日現在で、『2015年農林業センサス』を実施します。

「農林業センサス」って?... 農林業センサスは我が国農林業の生産構造、就業構造を明らかにするとともに、農山村の実態を総合的に把握し、農林行政の企画・立案・推進のための基礎資料を作成し、提供することを目的に、5年ごとに行う調査です。

「センサス(census)」って?... 古代ローマに「センソール」という職の役人がいました。この役職は、5年ごとにローマ市民の数などを調査することを職務としており、センソールが行う調査を「センサス」と呼んでいたといわれています。

このことから、センサスとは、通常すべての客体を調査対象とし、個々の客体について、調査票を用い全般的な多項目にわたる調査を行うことを意味します。
-農林水産省HPから-



農林業センサス

2015年農林業センサスは、次のとおり実査されます。
農林業経営体調査(平成26年12月中旬～平成27年2月末)
農山村地域調査(平成27年4～6月末)

円滑な調査の実施に、ご理解とご協力をお願いします。

農林業センサスホームページURL: <http://www.maff.go.jp/j/tokei/census/afc>

編集: 中国四国農政局 徳島地域センター

〒770-0943 徳島市中昭和町2丁目32

TEL(088)653-2115(内線334) FAX(088)655-4657 <農政局HP><http://www.maff.go.jp/chushi/>
各種メールマガジンを配信中(登録はこちらから) <http://www.maff.go.jp/chushi/mailm/index.html>